

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.52 2009年12月号

今月は、松下幸之助さんがとなえた「ダム式経営」をご紹介したいと思います。以前、長野県知事を務めた田中康夫さんが「脱ダム」宣言をしたあたりから注目され始めましたが、「ダム」というのはみなさんもよくご存知の、水をためておくあのダムのことです。

ダムがなかったころは、雨がたくさん降ると水があふれて川は氾濫する一方、雨が降らないと干上がってしまうというように、人間の生活は天候によって大きな影響を受けていました。ところが、ダムを作ることによってたくさん雨が降ってもそれをダムにためておいて川が氾濫しないようにし、雨が降らなくなったら、ためておいたダムから水を流すことによって川が干上がらないように調節することが可能になりました。これを会社経営に生かしたのが、松下さんの「ダム式経営」です。

商売には好況・不況の波があるものです。商売が順調なときはつい、それにうかれて、あるいは税金の支払いを嫌って不必要な買い物をするのがよくあります。役員や従業員の給与を必要以上に上げてしまうこともあるでしょう。しかし、いったん買ったものは不要になっても簡単には処分できないことが多く、また、いったん上げた人件費はなかなか下げられないものです。ところが、商売が厳しくなってくると各種の支払いを抑えざるを得ない状況になりますから、ふだんからお金をためていなかった会社は、経費や人件費の出費を実際に削らなくてはなりません。しかし、好況にうかれることなく、あるいは過度な節税に走らず堅実にお金をためていた会社は、不況で厳しい状況になってもその蓄えを取り崩すことによって設備投資を行ったり、人件費を下げずに済みます。それが不況時の競争力の差となって現れ、その後景気が回復したときの差となって現れてきます。環境そのものは個々の会社の力ではどうすることもできないものですから、ふだんからしっかりと蓄えを持ち、そうした環境変化に翻弄されない「ダム式経営」を目指したいものです。

さて、早いもので今年ももう12月です。毎年のことですが、みなさまには本当にお世話になり、大変感謝しております。

来年もみなさまにとってよい年になりますように。

